

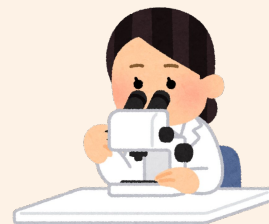
2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第18回】

今後の専門的課題研究に向けて



2025年11月25日（火）



専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

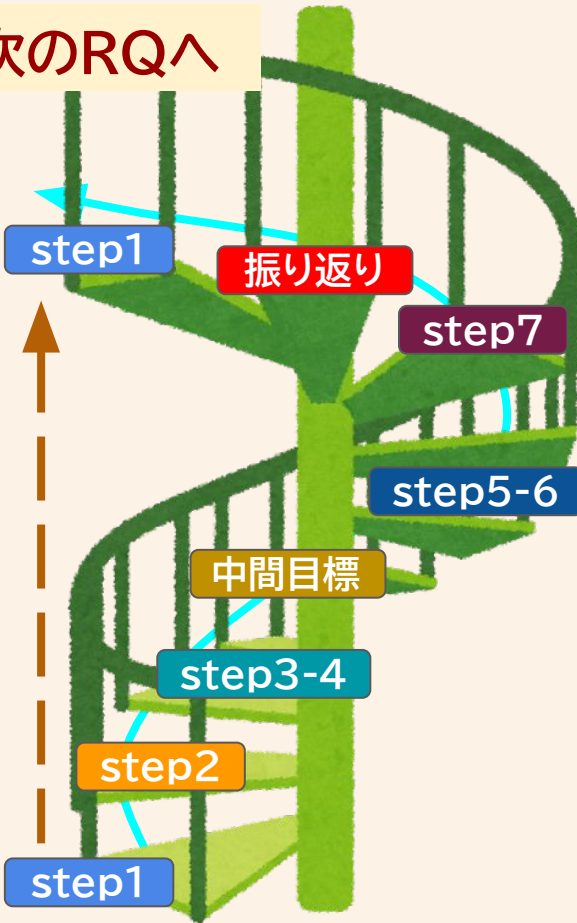
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



「SS II」の評価

※発表の評価対象には発表資料(ポスター、スライド、研究要綱など)も含まれます。

知識・技能	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
思考力・判断力・表現力	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
主体的に学習する態度	探究ノート(通年) 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月) 学年末の振り返り

本日の配布資料

探究Day自己評価フォームに対するフィードバック

これからの課題研究に向けたふりかえり

2025年度 探究Day 振り返りシート（自己評価と今後に向けた省察）

チーム		コース		組番		氏名	
-----	--	-----	--	----	--	----	--

◆自己評価に基づく助言

構成の論理的一貫性 ▶批判的思考力 ▶表現力 【レベル4】	研究の目的から考察まで、全ての要素が見事に結びついた論理構成でした。聞き手を自然に導くストーリーの流れは深い思考力の証です。この卓越した構成力を、次は「専門外の人」にも伝わる形で応用してみましょう。背景知識のない人に説明する練習が、論理をさらに強固にします。また、なぜこの構成を選んだのかを言語化できると、この技術が再現可能なスキルになります。
課題の背景と意義への理解 ▶未知への好奇心 ▶社会に関わった姿勢 【レベル4】	あなた自身の強い好奇心と、社会的課題への深い洞察が見事に結びついていました。研究の意義を多角的に示せたことは素晴らしいです。この視点はあなたの最大の強みです。今後は、この研究の意義をさらに多くの人に「共感」してもらうための「伝え方の戦略」も探究してみましょう。例えば、異なる立場の人（例：研究者、実務家、一般市民）にとっての意義をそれぞれ説明する練習が効果的です。
問いと仮説の適切性 ▶仮説構築力 【レベル4】	先行研究を深く読み込み、そこから独創的かつ「検証可能な」仮説を導き出している点は見事です。この仮説構築力は研究の要です。次のステップとして、この仮説を検証する「代替アプローチ」も検討してみましょう。「別の方法でも検証できないか」を考えることで、研究計画にさらに厚みが出ますし、結果の信頼性も高まります。
研究方法の妥当性 ▶手続的知識 ▶情報活用能力 【レベル4】	仮説を検証するために複数の方法を比較検討し、最適解を選択できている点が素晴らしいです。再現可能なレベルで具体的に説明できている、科学的姿勢が完璧です。この計画なら信頼できるデータが取れるでしょう。実験・調査の際は、計画通りにいかなかった点も必ず記録しておくことをお勧めします。そうした「予定外の出来事」の記録が、考察を深める貴重な材料になります。
結果の解釈と考察の妥当性 ▶批判的思考力 ▶メタ認知能力 【レベル4】	結果を多角的に分析し、仮説と結びつけて論理的に考察できていました。さらに研究の限界と今後の展望まで言及できている、大変優れた考察です。このメタ認知能力（自分の研究を客観的に見る力）は、今後どんな分野でも役立つ重要なスキルです。ぜひこの強みを自覚し、伸ばし続けてください。また、この「研究を俯瞰する視点」を他者に伝えることで、あなた自身の理解もさらに深まります。
発表の明瞭性 ▶表現力 【レベル4】	聞き手の知識レベルを常に意識した、対話的で引き込まれる発表でした。声の抑揚、視線の配り方、言葉選びまで、あなたの「伝えたい」という情熱が伝わりました。この卓越した伝達能力は素晴らしい武器です。ぜひ、このスキルを他の生徒にも共有（教える）してみてください。他者に「教える」プロセスは、あなたが感覚的に持っているスキルを「再現可能な技術」として客観視し、言語化する最高の訓練になります。
視覚的表現のデザイン性 ▶表現力 ▶情報活用能力 【レベル4】	情報が瞬時に、かつ的確に伝わる非常に優れたデザインのスライドでした。図表やレイアウトが要点を強調し、発表全体の説得力を高めていました。このデザインスキルは大きな武器です。さらなる成長のために、「なぜそのデザイン（配色、配置、フォント）にしたのか」を言語化できるようになると、再現性が高まります。デザインの意図を説明できることが、真のデザイン力です。
質疑応答における対話力 ▶批判的思考力 ▶協働する力 【レベル4】	質問の意図を的確に読み取り、自身の研究データに基づいて誠実に応答できていました。対話を通じて自分の研究を客観的に見直す姿勢は、真の研究者のものです。質問者も、あなたの誠実な回答に触発されていました。この対話力を今後も大切にしてください。また、今回の質疑応答で得た新たな視点を、今後の研究にどう活かすかを考えることも、研究を深める重要なプロセスです。

◇今後に向けた省察

質疑応答での助言	
改善の余地がある観点	
明らかにできたこと	
明らかにできなかったこと	
上記を踏まえた今後の課題	
テーマに対する認識の変化	
探究における発見	
自分自身の変化	
これから最も高めたい力	

11/11の授業内で
提出してもらった
記述を反映

今後の予定

11/11	第17回	課題研究活動（探究Day振り返り）※40分授業	
11/25	第18回	課題研究活動（探究発表会に向けて）	
12/9	第19回		年内に探究Dayまでに 検証しきれなかった課題の 考察や追加調査を 実施しないと間に合わない！
12/16	第20回		
12/23	第21回	ポスター制作	
1/13	第22回		
2/10	第23回		※40分授業
2/15（土）	生徒探究発表会		

生徒探究発表会に向けた今後の進め方

STEP 1 | 最優先課題(問い)の設定

元にする情報: フィードバック内容、これまでの振り返り

アクション: 約2か月間で最優先に明らかにすべき「問い・課題」を絞り込む

STEP 2 | 検証方法の検討

アクション: 2か月という限られた期間の中で実現可能な検証方法を計画する

STEP 3 | 指導教員への報告・ブラッシュアップ

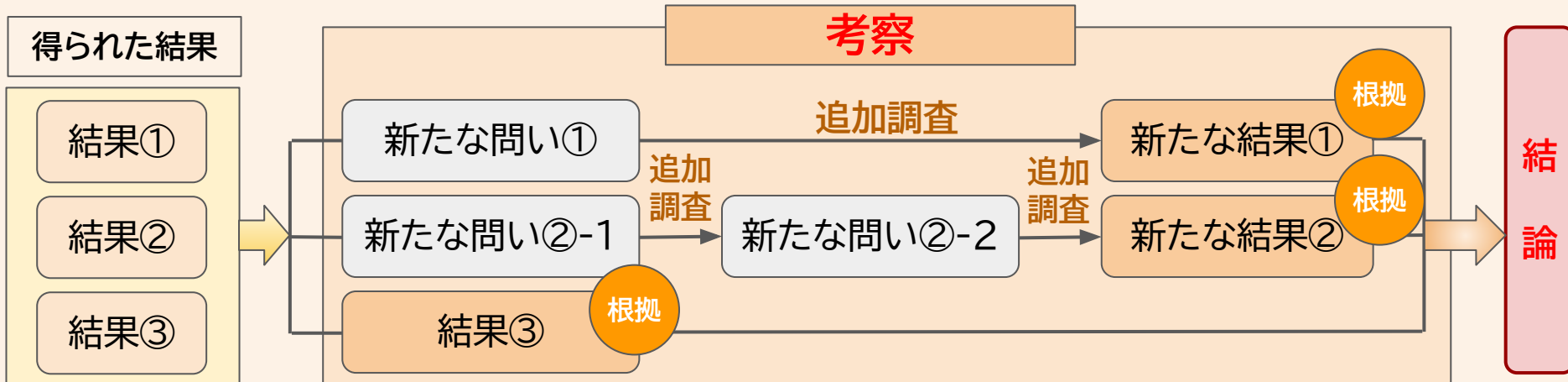
アクション: まとめた「次の課題」と「検証方法」を指導教員に報告する

ゴール: もらった助言を反映し、発表内容をさらに洗練させる

考察の進め方（課題研究メソッド 第4章）

前提として、リサーチクエスチョンに対して、仮説を立て、
仮説を検証するための研究方法を選択して、結果が得られている。

→ **考察**とは、得られた結果を分析し、**結果に含まれる事実や
次の研究につながる問い、リサーチクエスチョンの答えとなる
結論を導く最重要ステップ**である。



研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
文献調査	● すべての研究において、研究テーマの理解や知識を深めるために、必ず必要な要素となる ● 調査対象は、書籍、論文、報告書、新聞、インターネット記事などさまざま ● 引用を正しく行う必要がある	● 盛んに研究・議論されている研究テーマであれば、対象となる資料の種類が豊富にある ● アンケート調査やインタビューを行わなくてもデータを収集できる ● さまざまな資料を調査することで、新たな発見の可能性もある	● 調べ学習に陥りやすい ● 資料が膨大にある場合、その取捨選択を行う必要がある ● 過去の情報を取り扱っているため、現状と異なる記述となっている場合がある ● 著者による偏りを防ぐため、複数の文献を用いる必要がある
アンケート調査	● 用意した質問項目に対して多数の調査対象者から回答を得る手法 ● 同時に多数の対象者への調査が可能	● 一度に多くの人から意見を集められるので、定量的な調査ができる ● 自由記述によって定性的な調査もできる ● 回答の記録がとりやすいので、ふりかえりを行うことができる	● 原則、やり直しがきかない ● アンケートフォームの書き方によって、質問の意図が正しく伝わらずに回答される可能性がある ● 求めている回答に誘導してしまう可能性がある ● サンプルングや結果分析に統計の知識・理解がないと誤った結果を導いてしまう

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
インタビュー調査	- 調査対象者へ面接・対話を行い、会話の中から必要な情報を得る手法 - 主に少人数の対象者への調査が可能	- インタビュー中に新たな発見があり、質問項目を変えたい場合、臨機応変に対応できることもある - 質問の仕方によって、調査対象者の意見をさらに引き出すことができる	- 原則、やり直しがきかない - 求めている回答に誘導する可能性がある（アンケート調査でも、アンケートフォームの作成を誤ると生じる） - 記録をしっかりとらなければ分析が難しくなる - 聞きたいことをまとめて、適切な質問をする必要がある
参与観察・ 現地調査	- 問題や関心を抱いた組織やグループに一員として参加し観察する手法（例；インターンシップなど） - 実際に調査対象となる地を訪れ、試料収集や観察を行う（地学分野などでは巡検と呼ぶ）	- 組織やグループの外側から認識できなかった側面や実態を把握することができる - 文献のみでは理解が不十分な部分を補うことができる - 偶然の発見がある	- 対象となる団体数（サンプル数）が少なくなってしまうため、調査対象のグループや組織を一般化して語れるかという議論をする必要がある - 主観的な感想だけにならないよう、データを残すには技術が必要（→他の研究方法との組合せ） - 事前に調査地域に危険がないかなど、危機管理が必要

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
実験	- 理論や仮説に対して実際にそれと同じ状況・条件を(人為的に)作ることで, データを測定・収集し, 検証を行う手法 - 自然科学分野でよく行われる - 人文・社会科学分野でも, ロールプレイなどの実験が行われる	実験方法に間違いがなければ実態を直接測定・観測することができる	- 実験の原理を理解していないと, 何を測定しているのか, 問題点も含め, わからなくなってしまう - 結果が得られないと, 研究自体がまったく進まなくなってしまう可能性がある